

1. 作成した（取り組んだ）ポータル名 若しくは 課題

当初、自ら設定した課題は「ネットワーク上のフリーの学術情報（オープンアクセス論文、電子ジャーナル等）を OAI-PMH で自動的に収集し、汎用連想計算エンジン GETA を利用して連想検索可能にする。」だった。

2. 1 の概要

メタデータデータベースから OAI-PMH でメタデータを取得し、それを解析、概要などの情報を元に連想検索をする。」

3. 演習とその成果 何を計画し、実装して、何ができたか。

演習では、GETA の利用方法に身に付ける事を第一の目的とした。まずは、実際に GETA に付属の CGI インタフェース (assoc.cgi) を利用して沖縄県内行政資料の書誌情報（目次情報を含む）から連想検索が出来るようにした。

その後、GETA を今後、汎用的に利用することを考え、GETA のチュートリアルに乗っている 4 つの機能（フレーズ検索、文書要約、文書連想検索、トピックワード検索）をコマンドラインから実行できるようなモジュールの作成を目指した。実際に、引数として検索語とどの機能を使うかの指示を与えることで、上記機能を実行するようものを作った。さらに連想検索の結果を絞り込むために、and/not での検索も出来るようにした。

(1) 演習第 1 日

OAI-PMH で NII や DOAJ から実際にメタデータを取得できる事を確認。また、合宿中に実行したい事の計画と、翌日の着手発表会に向けてのプレゼン資料作成を行った。

(2) 演習第 2 日

GETA のインデックスファイル（頻度ファイル）を作成し、GETA に付属のテスト用 CGI (assoc.cgi) で検索を実行可能にした。（写真 1）

(3) 演習第 3 日

コマンドラインからフレーズ検索、文書要約、文書連想検索、and/not 検索が実行できるモジュール (geta.pl) の作成（写真 2）。OAI-PMH による NII からのメタデータ取得と解析（写真 3）。しかし XML の解析に手間取ったので、今回、解析はあきらめ geta.pl を作りこんだ。

翌朝は、プレゼンのみだったが、合宿中に学術機関リポジトリ Dspace の環境構築（写真 4）を試したいと思い、朝 4:00 から取り組んだ。結局 7:00 前ごろに完成した。このときの環境は FedoraCore1 だった。

4. 研修で学んだ技術及び知識

学んだ技術

GETA の使用方法。OAI-PMH の実際の利用方法。学術機関リポジトリの概要。

参考になった URL

<http://geta.ex.nii.ac.jp/getaN2001/gdoc/geta/ext/wam/doc/tutorial.html>

GETA マニュアルに付属のチュートリアルの中の「Perl インタフェース活用術」

GETA について理解が不十分なときには読んで理解できなかったが、必要な情報はほとんどここに載っている。

<http://www.doaj.org/>

DOAJ (Directory of Open Access Journals)

オープンアクセスの電子ジャーナルをまとめたデータベース。

5. 事前準備として必要と思われるもの

XML の処理方法。また、GETA を利用するのであれば頻度ファイルの作成まで済ませておけばよかったのかもしれない。整形で少しだけ手間取った。

6. 今後の課題（職場で更に調査する必要のあるもの等）

XML の処理方法。GETA での検索に向いているデータの調査。頻度ファイル作成の際に利用する形態素分析のチューニング。GETA のさまざまなパラメータの調整による検索結果の違い。ネットワーク上の学術情報の調査とその提供方法の検討。

7. 今後の計画（実際のポータル構築計画等）

利用対象者の目線にたった学術ポータルとして、Web サイトを再構築したい。具体的には、学生、教員、学外者用の学術ポータルを作成したい。平行して、連想検索などを駆使しネットワーク上の学術情報提供サービスの充実をはかりたい。

8. 演習の感想

演習では GETA を使いこなせるようになったのが一番の収穫だった。演習中は「個人で時間をかければどうにかなりそうなことは、できるだけやらない。」という気持ちで取り組んでいた。丸川先生が、次にやるべきこと（GETA ではこんなこともできるよ的なこと）を親切に教えてくださったので、スムーズに進めることができた。各自の目的とする技術ごとにグループ分けをしたことも受講生同士のコミュニケーションにつながり、良かったと思う。他の受講生の方々とのお話は刺激になった。

プレゼンでは、自分の取り組んでいる技術の話だけでなく、他の方々の取り組んでいる技術の内容や目指すものについてのお話を伺う事ができ、参考になった。また、着手発表、中間発表を行う事で、自分のやりたいことを明確にしながら進めることが出来たのも良かった。それぞれの興味、スキルが異なる中で各人それなりの結果が得られた事やモチベーションを上げられたことは非常に有意義な研修だったと感じた。また、全国の色々な方々と知り合えた事も収穫だった。

9. 備考、その他

羽田課長補佐、成沢さん、杉田さん、鈴木さん、丸川さん、日高さんはじめ講師の皆様、それから研修で一緒させていただいた皆様へ心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

写真 1 : assoc.cgi を実行したところ

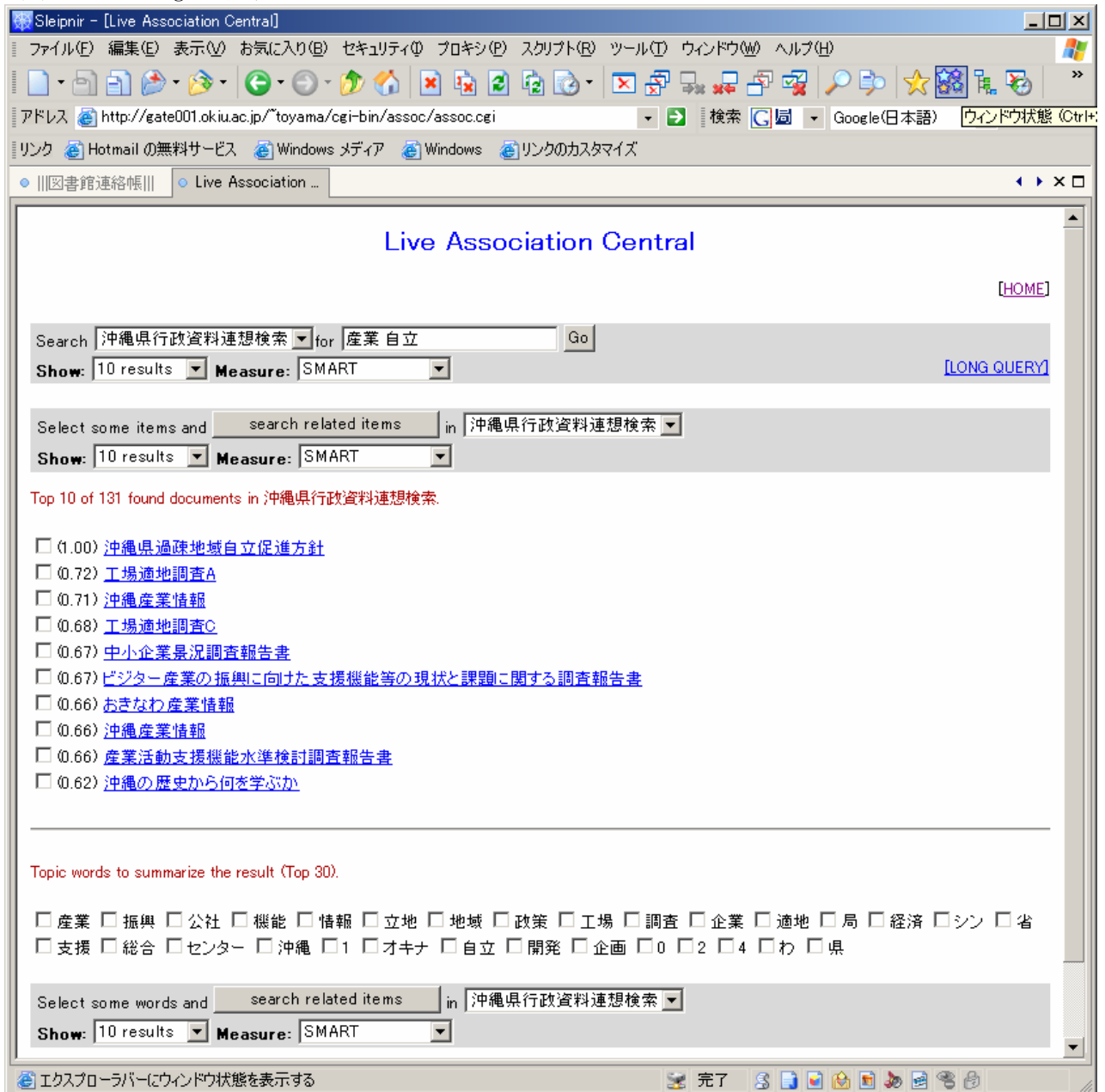


写真2 : geta.pl を利用して、フレーズ検索、文書要約、文書連想検索、and 検索を実行したところ

```
toyama@loox: /home/toyama/public_html/cgi-bin/geta
[toyama@loox geta]$ ./geta.pl
使い方：検索語 検索方法[ phrase, summarize, text, and, not ] を指定してください。

[toyama@loox geta]$
[toyama@loox geta]$ ./geta.pl '沖縄国際大学図書館' phrase
1: 冲国大紀要著者別論文索引
2: 各大学紀要目録
3: 沖縄国際大学図書館蔵書目録
4: 沖縄国際大学図書館蔵書目録
5: 沖縄図書館協会誌

[toyama@loox geta]$
[toyama@loox geta]$ ./geta.pl '沖縄国際大学図書館の創立は1997年。蔵書数は32万冊' summarize
蔵書 沖縄国際大学 読書 図書館 目録 創立 移動 公共 実行 周年 連絡 集会 記念 全国 巻 沖縄大学 調べ 現在 アヒル 家鴨 最初 司書 自我 身近 尋常 定時 心理 面 実務 みんな 協議 子学 設置 制主 現状 立本 習慣 出版 案 協会 目 建設 点 実態 化 発行
[toyama@loox geta]$
[toyama@loox geta]$ ./geta.pl '沖縄国際大学図書館の創立は1997年。蔵書数は32万冊' text
1: 沖縄国際大学図書館蔵書目録
2: 沖縄図書館協会誌
3: 沖縄国際大学図書館蔵書目録
4: 沖縄の読書施設
5: 沖縄県図書館協会誌

[toyama@loox geta]$
[toyama@loox geta]$ ./geta.pl '沖縄国際大学図書館 協会' and
1: 沖縄図書館協会誌

[toyama@loox geta]$
```

写真3 : OAI-PMH で NII からデータを取得。

```
toyama@loox: /home/toyama/public_html/cgi-bin/geta
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<OAI-PMH xmlns="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/ http://www.openarchives.org/OAI/2.0/OAI-PMH.xsd">

  <responseDate>2004-12-17T06:25:11Z</responseDate>
  <request verb="ListRecords" metadataPrefix="oai_dc" set="0001">http://ju.nii.ac.jp:80/cgi-bin/oai/oai2.0</request>
  <ListRecords>
    <record>
      <header>
        <identifier>oai:ju.nii.ac.jp:00006978</identifier>
        <timestamp>2002-06-18T13:24:04Z</timestamp>
        <setSpec>0001</setSpec>
      </header>
      <metadata>
        <oai_dc:dc xmlns:oai_dc="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/oai_dc/" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/oai_dc/ http://www.openarchives.org/OAI/2.0/oai_dc.xsd">
          <dc:title>釧山及び鉄道機械到着につき引取依頼(電報)</dc:title>
          <dc:title>コウザン オヨビ テツドウ キカイ トウチャク ニ ツキ ヒキトリ イライ (デンポウ)</dc:title>
          <dc:title>Kōzan oyobi tetsudō kikai tōchaku ni tsuki hikitori irai (denpō)</dc:title>
          <dc:creator>北海道大学附属図書館</dc:creator>
          <dc:creator>ホッカイドウダイガクフゾクトショカン</dc:creator>
          <dc:creator>Hokkaidō daigakufuzokutoshokan</dc:creator>
          <dc:subject>北方資料</dc:subject>
          <dc:description>開拓使外国人関係書簡目録</dc:description>
          <dc:publisher>北海道大学附属図書館</dc:publisher>
          <dc:date>1998-9-31</dc:date>
          <dc:type>史料目録</dc:type>
          <dc:type>特殊コレクション-北海道大学北方資料データベース</dc:type>
          <dc:format>text/html</dc:format>
          <dc:identifier>http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/letter/doc/0C000010000000.html</dc:identifier>
          <dc:language>jpn</dc:language>
          <dc:relation>isPartOf: http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/</dc:relation>
        </oai_dc:dc>
      </metadata>
    </record>
  </ListRecords>
</OAI-PMH>

1.1 先頭
```

写真 4 : 学術機関リポジトリ Dspace 初期画面

